

【資料6-4】

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2026年3月3日
作成 高齢者支援センター	南第2
作成者	佐伯

1.開催日時	2026年2月27日	(金)	18:30	～	20:00
2.会場	わさびだ療育園				
3.主催センター	南2				
4.参加人数	40名				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター	8人	<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター	1人	
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者	7人 (うち、医師 1人)	<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者	4人	
	<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	6人	<input type="checkbox"/> 老人会	人	<input checked="" type="checkbox"/> 住民 4人
	<input checked="" type="checkbox"/> 町内会自治会	5人	<input type="checkbox"/> 警察	人	<input checked="" type="checkbox"/> 行政 1人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	(4名)			
6.開催テーマ	「見守りはどこまでやればいいのか?」～支え合いのまちづくり				
7.地域課題	(1)課題設定の背景				
	<p>・地域の見守りが必要と言われて久しいが、実際の「見守りをどこまで実施したら良いかわからない」という地域の声があった。また現場では「どこまで踏み込んでいいのか」「お節介にならないか」等悩む声も多く、心理的な葛藤が活動の担い手の負担となり、実践への足かせとなっている。</p>				
8.医療と介護の連携に関する課題	(2)検討した地域課題				
	<p>・地域の見守りはどこまで実施すればよいか。 ・参加者の「迷い」を共有し、プライバシーに配慮した、見守る側・見守られる側の『心地よい距離感』が検討されていない。</p>				
9.会議の内容	<p>・「地域の見守り」において現場の迷いや心理的負担が活動の足かせとなっている背景には、これまで見守り活動を『医療』の側面から考える機会が乏しい。『医療・介護・見守り』が一体となった連携の仕組みづくりの必要性を検討する機会がない。</p> <p>・南2より地域の現状報告を実施。グループメンバーでそれぞれの情報共有、現状報告、個々の事例の共有。グループワークを通して以下の課題を抽出した。 「自治会町内会の加入率が低下の一途を辿り、地域の支え合いが崩壊していると言われているが隣近所で声をかけあったり地域の集まりで支え合ったりという関係はまだある。ただどこにも繋がれない人をどうするのか、何をすることができるのか」が課題 「親切で声掛けをしたことがその人のプライドを傷つけてしまったことがあった」 「民生委員は自宅の近所の方々を担当するが近所だからこそ家に訪問して欲しくない人もいる」 「家族で同じ薬局を使っていることも多いので、気になったり見かけなくなった等があれば家族へ『最近どうしていますか』と確認をすることもある」 「自分の自治会では加入率が50/300世帯くらいで役員3人で対応しているが加入率が上がらない」「町内会が見守りとして機能しなくなってきている」などの課題を共有した。</p>				
10.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>・「何ができるのかが課題」というグループ意見があったが「今日のような集まりで地域を支える人々が顔見知りになってその輪を広げていけたらよい。」 ・必要な人々に寄り添って話を聞く、「放っておいて」と嫌がられることがあってもお節介は必要、手を差し伸べる。 ・日頃から知っておくことが大事。いつもと違うことが複数確認されると危機感が増して感じられる。アンテナを張っておく。 ・町内会が「見守り」として機能しなくなっているため網の目のネットワークを築いていきたい。</p>				
11.その他	<p>・次回、今回の現状把握、課題共有を踏まえて地域での繋がり、見守りについて展開していく地域ケア推進会議を開催予定。</p>				

医療と介護の連携支援センター 確認日	3月5日
--------------------	------